

私の漫画「カラズン」に込める想い

シェパ サミラ

‘わんりい’ 4月号で掲載を予告した、フランスから日本に来て漫画の勉強をしている、シェパ・サミラさんの漫画「カラズン」*を本号より、‘わんりい’の折り込みとして皆さんにお届けします。抜き取って保存頂くと最終的にサミラさんの作品としてまとまる筈です。折り込み掲載にあたって、この漫画に込めた想いと、漫画を理解する一助にと思い登場人物のキャラクターについての説明を寄稿頂きました。 *「カラズン」はアルジェリア語でサクラの意

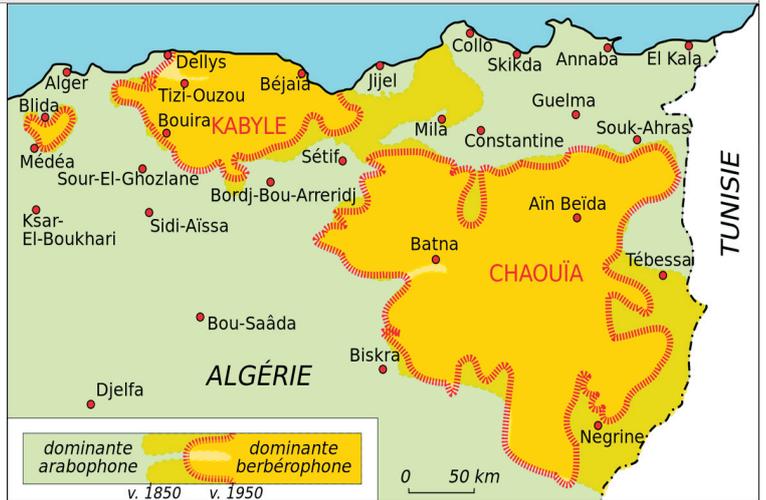
私の名前はシェパ・サミラといいます。家族のルーツはアルジェリアのカビル(Kabyle)です。カビルは、アマズイーという民族に属しています。ですから、私はカビルの血、モスリムの信仰をもっています。

アマズイーはベルベル人と呼ばれていますが、ヨーロッパにたびたび進出した歴史から「ベルベル」という語は暴力と結び付けられ、差別的なイメージがあります。しかし、本当はアマズイーは平和な民です。

私はフランスで生まれたので、アマズイーとフランスという、異なる二つの文化の中で、それを自然のこととして育って来ました。私は、日本の皆さんにアマズイーとカビルのことを知ってもらいたいと思い、漫画「カラズン」を発表します。

アラビア語で「桜」を意味するカラズンは、人々の争いをやめさせるために、自然の女神によってジャナという星から送られてきました。カラズンは、天空の神レイと、大地の女神セイの娘です。

漫画の主人公にカラズンという名を選んだのは、日本に来て「花見」に行き、桜の美しい光景を見たからです。咲き誇る桜には自然の恵みと美が集約されています。花見は、私には自然の恵みと美を祝うすばらしい一日になりました。ジャナは、アラビア語で「天国」という意味です。ジャナは、争いのない平和な世界です。この地上でもそれが実現できないものでしょうか？



カラズンは、アマズイーのシンボルをつけています。漢字の「木」の象形文字に似たシンボルは、平和を表しています。

今日、テロリズムがモスリムに否定的なイメージを与え、恐れを抱く人さえいます。この物語を通して、私たちモスリムの本当の姿はテロリズムとはまったく無縁な、平和な民であることを伝えると共に、温かく、穏やかな私たちの家や故郷を知ってほしいと願っています。

漫画「カラズン」の中で、私は人々の争いについて考え、その解決方法を探ります。